

内分泌かく乱化学物質に関する情報の共有・相互利用化推進事業

2005 年 3 月 8 日
環境安全課

【趣旨】

SPEED '98 を改訂し「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について（案）」をとりまとめる作業の中で、以下の指摘がなされた。

- ・これまでの取組では情報提供が不足していた。
- ・内分泌かく乱作用に関する情報を広く一般に伝えていくためには、一方的な情報発信では十分な効果は得られず、双方向の情報発信が重要である。
- ・継続的、直接的な情報提供が必要である。

また、改訂作業の中で、これまでの SPEED '98 による取組みについて「環境ホルモン戦略計画 SPEED '98 取組の成果」とするパンフレットを作成したが、「分かりにくい」という声が多かった。

他方、「情報の共有・相互利用化推進事業」としては、これまで国立環境研究所のホームページ中に「環境ホルモンデータベース」として情報提供を進めてきたが、今年度継続が困難となった。

以上のことから、双方向的、継続的かつ直接的な情報提供を可能にする手段として大変有効と考えられるホームページ(HP)を立ち上げるための調査検討を行うこととする。

【平成 16 年度事業】

(1) リスクコミュニケーションに配慮した HP の事例と要素に関する調査

類似した事例の検討

環境ホルモンと同様に、一般人のリスク認知が二極化し論争が紛糾しているテーマを取り上げ、相互理解を深めるリスクコミュニケーション手法の一つとしての HP の構成及び特徴点を調査・整理する。具体的には、原子力発電と電磁界を取り上げる。

既存の環境ホルモンに関する HP についての検討

環境ホルモンの情報提供に関する HP について、構成および特徴点を整理する。Q&A についても参考にする。

海外：国際機関（IPCS、OECD、EU 等）、米国環境保護庁、米国自治体、カナダ環境省、オーストラリア厚生省、英国環境庁、大学等

国内：関係省庁、学会、業界団体、NGO 等

(2) HP の枠組み案の検討

(1) の 調査で抽出されたリスクコミュニケーション上有効と思われる手法を反映した HP の枠組み案を作成する。リンク先 HP の調査、ネーミングの検討を行う。さらに、HP のアクセシビリティ、使用または制限すべき IT 技術についても検討する。

(3) HP コンテンツ案の検討

HP の内容は、大きく専門家向け及び一般向けに分ける。

専門家向けページは、これまで国立環境研究所 HP 内に設置されてきた「環境ホルモンデータベース」の内容を継続することとし、新たな科学的データを随時追加し国内外の研究者に広く活用してもらえよう整備する。

一般向けページの主な内容としては以下のような項目が考えられる。

環境ホルモンという問題についての概要

環境ホルモンに関する環境実態調査の結果（日本地図などを用いて見やすくまとめる、環境中濃度についての解釈の助けとなるよう実験において影響が見られた濃度を記載する）

これまでの環境省の対応

（「環境ホルモン戦略計画 SPEED ' 98 取り組みの成果」）

環境省の今後の対応方針

環境ホルモンに関する諸説についての年表（両論併記）

リンク集

各項目についてはトップページにおいて Q&A をつけ、その中に、「次世代影響」「低用量問題」「予防原則」といった一般の関心が高いキーワードを配置する。トップページには誰がどのような立場で情報発信をするのかということが明確になるよう簡潔な説明を掲載する。最終更新日もトップページに掲載する。

【今後の方針】

平成 17 年度中早期に、完成した部分から逐次公開していく。以後、掲載する情報や HP リンク先の定期的な更新、Q&A への一般からの意見の反映等、メンテナンスの方向性に関し検討を行っていく。